

- 5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。
5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。
5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。
5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。
5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。
5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。
5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。
5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。
5:11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせる
とき、あなたがたは幸いです。
5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前
にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

はじめに

聖餐式に与る第一日曜日は、引き続き、マタイの福音書のシリーズを学びます。
ご存知のとおり、現在私たちはマタイの福音書すべてを学ぶ形式ではなく、マタイの福音書に登
場するイエスの五大説教に焦点を絞って学んでいます。
今朝は、マタイ 5 : 7-9 を学びます。

1. あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。(7節)

イエスが用いた「あわれみ」と訳された単語は、歴史背景を踏まえ、肯定的にとらえる必要
があります。

この「あわれみ」という単語は、ヘブル語では「ヘセド」です。

この単語は旧約聖書で頻繁に用いられます。

これは、神特有の尽きないあわれみをあらわします。

そして、苦しんでいる人に共感するという意味合いが含まれます。

他の人の悩みにかかわり、理解し受容することを意味します。

これこそ、神がイエス・キリストにあって私たちのためにしてくださることです。

神は、イエス・キリストという人の姿で人間とひとつになってくださいました。

神は、私たちが抱える罪の問題について完全に共感してくださいました。そして、苦しみ
を受け、私たちのために死なれました。

イエスがここで語られた言葉は、神のご性質を宣言する言葉として旧約聖書の随所に繰り
返されています。

詩篇 18:25 あなたは、恵み深い者には、恵み深く、全き者には、全くあられ、

イザヤ書 49:13 天よ。喜び歌え。地よ。楽しめ。山々よ。喜びの歌声をあげよ。【主】が
ご自分の民を慰め、その悩める者をあわれまれるからだ。

あわれみは良い行いの報いではないことを私たちは理解しなければなりません。

むしろ、それは御国に属する者の勲章のようなものです。

現在、サッカーワールドカップが開催中ですが、各国の代表選手たちのユニフォームには、
その国の国旗や紋章があります。私たちクリスチャンはあわれみを見せることで、この世
とは違う国に属することを宣言するのです。

イエス・キリストというお方の十字架上の死によって神が大きなあわれみを示してくださ
ったと悟っている人は、他の人にあわれみを示すことで神への感謝をあらわします。

福音のメッセージで大切なのは、神がイエス・キリストをこの世に遣わすことで、罪深い
人類にあわれみを示してくださったことです。

神のあわれみを周囲の人に示すことには、あわれみの福音を伝えることも含まれます。もちろん、困っている人を物質的に助けるのもよいことですが、その人たちに福音を伝えなければ、永遠に続く神のあわれみを示したことにはなりません。

大恐慌が起こった際、米国では多くのキリスト教団体が貧しい人々に食事を提供しました。ある宣教団体は、集まった貧困層の人々に毎日福音を語りました。食事を提供し、帰り際にはその日に必要な食糧を手に入れられるだけのお金も渡しました。これを何カ月も続けましたが、ひとりもキリストを信じる人はありませんでした。けれども、ある日ひとりの若者が、イエスが救い主だと信じたと言いました。彼は、食べ物とお金を目当てに数か月間通っていたと言いました。けれども、イエス・キリストに満たされたので、お金はもういらないといい、主の喜びに満たされて出ていきました。

ベツレヘムに、「希望の家」というキリスト教団体があります。ここは、目の不自由な人や障害のある子供たちのための施設です。その職員のひとりに、私たちはベツレヘムでお会いしました。彼は、その施設では一切料金を取らないと言います。けれども、その施設で世話になる人は皆、聖書や福音を教わるのが条件だと言います。ベツレヘムはパレスチナのムスリムの地区にあるので、そのポリシーを守りきるのは難しいと思われませんが、彼らは目の不自由な人や障害のある子供たちに衣食住を提供すると同時に福音のメッセージを伝えて、神のあわれみを示しています。これは、実用的なニーズに応えつつ福音を伝えることです。

パウロは、ローマ 1:16 で語りました。

「1:16 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」

2. 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。(8節)

私たちの心とは、私たちの命の核です。私たち自身を象徴します。マタイ 15:18-20 で、罪とすべての汚れの出どころは心だとイエスはおっしゃいました。

マタイ 15:18-20

15:18 しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。15:19 悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです。15:20 これらは、人を汚すものです。しかし、洗わない手で食べることは人を汚しません。」

イエスは、神のご臨在の中に入り、神にお会いするには、きよくなければならぬとおっしゃいます。

詩篇 24:3-4

24:3 だれが、【主】の山に登りえようか。だれが、その聖なる所に立ちえようか。24:4 手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかった人。

詩篇 73:1 は、心のきよい人に対して神はいつくしみ深いと語ります。

主イエス・キリストをとおしていただく神の恵みによってのみ、私たちの心はきよくなれます。

有名なチャールズ・ウェスレーは、この真理を描いた賛美歌を書きました。ここでその歌詞を引用しておきましょう。

1. 天地（あめつち）に勝る 神の御名を
ほむるに足るべき 心もがな

2. おごらずてらわず へりくだりて
わが主の御座みくらと ならせ給え
3. 生くるも死ぬるも ただ主を思う
揺るがぬ心を 与え給え
4. 心をきよめて 愛を満たし
わが主の御姿 成らせ給え
5. 御恵み豊けき 主よ来りて
心に御名をば 記し給え

(新聖歌 10 番)

イエス・キリストの尊い血によって洗いきよめられてはじめて、私たちはこの賛美歌が語るような心を持つことができます。

ヨハネ第一 1 : 5-10

1:5 神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。 1:6 もし私たちが、神と交わりがあると言っているながら、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行ってはいません。 1:7 しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。 1:8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。 1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。 1:10 もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。

今日私たちが与る聖餐式は、きよい心を持つことができるという宣言です。私たちが罪を犯したことを認め、神に自らの罪を告白し、イエスの血が私たちを罪から洗いきよめられると信じるなら、きよい心を持つことは可能です。

3. 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。(9 節)

この箇所は、文脈をとらえて理解することがとても大切です。

マタイは、平和条約の条文ではなく福音書を書いているわけです。

また、誰がこの言葉を話されたのかを思い出す必要があります。

イエスがこの言葉を語られたのは、この世に「霊的な戦い」があると私たちに思い起こさせるためです。

ある御使いが神のようになりたいと思った日から、その戦いは何千年も続いています。

すべての人の心に霊的な平和が実現するまで、目に見える平和がこの世に訪れることはありません。

イエスは、平和の君としてこの世に来られました。神と敵対関係にある人間の心に平和をもたらすためです。

エペソ 2 : 14-18

2:14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、

2:15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまさまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、 2:16 また、両者を一つのからだとして、

十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。
2:17 それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。 2:18 私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができるのです。

平和のメッセージは、福音のメッセージです。

人は、神との関係を正して初めて、自分自身の中にも、周囲の人々との間にも平和を見出すことができます。

イエスは、そうやって平和を見出した人を「神の子ども」と呼ばれます。その人たちが、イエスの血による神との一対一の関係を築いたからです。

二か月前のイスラエル旅行の参加者は、「シャローム」という挨拶を覚えました。

これは、ヘブル語で「平和、平安」という意味です。

この言葉は、戦争がないという意味ではありません。むしろ、人の幸福と関わる肯定的な意味です。

ユダヤ人に「シャローム」と挨拶するのは、その相手に最善が与えられることを願う行為です。

この世で人に起こり得る最善とは、イエス・キリストをとおして神との平和をつくることです。

あなたはもう、神との平和をつくりましたか。

今すぐそうすることができます。待つ必要はありません。イエスは、平和を私たちの心を与えるために、十字架上で死なれました。

その平和を受け取るために、今日、イエスのところに行きませんか。

マタイ 11 : 28-30

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。 11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。 11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」